



## てなたいへん!

# ▶▶▶「息子が包茎? みたいですが、手術治療が必要でしょうか?」◀◀◀

亀頭が包皮に覆われて露出していない状態を包茎といいますが、包皮の出口が狭くて、むけないのが真性包茎(亀頭が露出できない)で、引っ張ればむけるのが仮性包茎(亀頭が露出できる)です。小児では包皮の輪が狭い包皮輪狭小と亀頭と包皮の癒着という2つの要因が関係していると言われています。

小児における真性包茎は生理的なもので、生まれたときはほとんどが真性包茎で小児期の亀頭を守る役目をしていますが、その割合は年齢とともに低くなって、わが国の男児においては、包皮がむけない男児は6カ月未満で68.6%ですが、5歳までに10%以下になるといわれています。

さて、我々小児外科の外来にも、このような包茎の相談をされる方が多くいます。その受診理由としては、以下のようなものが挙げられます。

- 別の病院で、真性包茎は病的で手術が必要と言われた。
- 兄弟と比較して、弟はむけているのに、お兄ちゃんはまだむけていない。
- 包皮をむこうとしたら、何か白い塊のようなものがあって、驚いた。

このうち、「白い塊」と思われたものは、ほとんどの場合が、いわゆる「恥垢」と呼ばれるもので、これは初めてむけた時には、よく見られるものです。特に病的なものではなく、包茎が治れば消失します。

このような包茎で受診された方にまずお話しすることは、小児期に真性包茎でも基本的には必ずしも治療する必要はないということです。

さて、ではどういった時は包茎の治療をする必要があるのでしょか?

包茎が原因でおこる合併症として以下のようなものがあります。



- 1 亀頭包皮炎(亀頭と包皮の間に感染がおこり、赤く腫れあがる)
- 2 排尿障害(おしっこをするときに、包皮の出口が狭くて包皮が膨らんだり、おしっこが異常に散乱したりする)
- 3 尿路感染症(包皮があるために、頻りに膀胱炎や尿道炎になってしまう)
- 4 嵌頓包茎(むいた後に、戻さなかったために、亀頭を締め付けてしまう)

これらの症状がみられるときは、包茎の治療をした方が良いでしょう。

最後に包茎の治療に関してですが、近年になり、包皮の狭い部分にステロイド軟膏を塗り、包皮をむけるようにするという保存的治療が広く行われるようになってきました。これは、在宅で保護者が現時点で無理なくむけるところまでむいた上でステロイド軟膏を塗るという処置を繰り返すことで、手術をすることなく真性包茎を仮性包茎にすることができます。この保存的治療で効果がない場合や、閉塞性乾燥性亀頭炎(包皮口が白く硬くなる)を起こしている時などには、手術治療を考慮します。

包茎に関して気になることや、上記のような包茎の合併症と思われるような症状がみられる時は、小児外科もしくは小児泌尿器科への受診をお勧めします。

(現 三重大学医学部消化管・小児外科 小池 勇樹)

## 三重病院外来糖尿病教室

6月開催のお知らせ

「食事で血糖コントロール」

炭水化物の摂り方、ローカロリー甘味料の紹介などを予定しています。

日時

平成23年6月22日(水) 14:00~15:00

場所

三重病院 研修棟 第一研修室  
外来棟玄関にむかって左側の建物です。詳しくは職員にお尋ねください。

担当

栄養管理室 管理栄養士

関心のある方はどなたでも参加できます。参加費無料ですので、当日直接会場にお越しください。

お問い合わせは 059-232-2531 内科外来まで